

# 1 新斎苑計画の概要

## 1.1 新斎苑建設の背景

### 1.1.1 計画策定に至る経緯

現在の奈良市火葬場（東山霊苑火葬場）は大正 5 年に開設し、その後、昭和 43 年に老朽化対策改修、昭和 48 年に燃料を白灯油への切り替え改修、昭和 49 年に強制通風装置設置および再燃焼炉の改修工事、昭和 57 年に完全無煙無臭の独立型火葬炉への改修工事等、数度の改修を経て現在に至っています。

しかしながら、市民ニーズや火葬件数の増加などの社会状況の変化や近年の技術革新に伴う環境面への負荷の軽減等を考慮すると、旧タイプの施設の改修だけでは限界があります。

このような状況に対応するため、人生終焉の儀式的場にふさわしい、安らぎのある、また環境や景観に配慮した新斎苑を整備することとしました。



図 1-1 東山霊苑火葬場位置図

### 1.1.2 東山霊苑火葬場の概要

現在の東山霊苑火葬場の概要は以下のとおりとなっています。

表 1-1 東山霊苑火葬場の概要

|       |                                                         |
|-------|---------------------------------------------------------|
| 所在地   | 奈良市白毫寺町 973 番地                                          |
| 開設年月日 | 大正 5 年                                                  |
| 構造・規模 | 鉄筋コンクリート造平屋建 延床面積 578.93m <sup>2</sup>                  |
| 施設概要  | 火葬炉 8 基（内 大型炉は 1 基）、収骨室、遺体保管室（2 体）<br>斎場（有料）、職員用事務室、駐車場 |
| 業務内容  | 火葬業務、維持管理業務                                             |
| 業務時間  | 午前 9 時～午後 5 時                                           |
| 休業日   | 1 月 1 日～1 月 3 日                                         |

### 1.1.3 東山霊苑火葬場の運営状況

これまでの東山霊苑火葬場の運営状況は、以下の表のとおりとなっています。東山霊苑火葬場の火葬炉は、冷却装置が設置されていないため 1 炉につき 1 日 1 体、1 日合計 8 件の火葬しかできない設備となっています。そのため、年間最大で 2,896 体（362×8）の火葬しかできません。また、メンテナンスなどもあり火葬炉の稼働率を約 95%と仮定すると 2,751 体となり、現状で、ほぼ最大限稼働している状態ですが、市民の死亡者数に対して不足しており、市民の約 1/4 が市外の火葬場を利用せざるを得ない状況となっています。

本市の火葬炉使用件数は、平成 27 年度には 2,732 件で年々増加傾向であり、施設の能力が限界となっていることが表れています。

斎場については、年間数件～35 件と利用件数は多くありません。東山霊苑火葬場は、近年建設された火葬場の火葬時間（1.5 時間程度）に比べ長時間（3 時間程度）を要することや、施設が古く長時間を過ごすサービスを提供できない状況にあります。

表 1-2 東山霊苑火葬場の運営状況

| 年度       | 市民<br>死亡者数 | 火葬炉<br>使用件数 | 奈良市民<br>(利用率)    | 奈良市民外<br>(管外率 <sup>1</sup> ) | 行旅<br>死亡人 | その他 | 遺体<br>保管件数 | 斎場<br>使用 |
|----------|------------|-------------|------------------|------------------------------|-----------|-----|------------|----------|
| 平成 20 年度 | 3,006      | 2,484       | 2,332<br>(77.6%) | 111<br>(4.5%)                | 10        | 31  | 157        | 2        |
| 平成 21 年度 | 2,968      | 2,480       | 2,330<br>(78.5%) | 120<br>(4.8%)                | 6         | 24  | 176        | 9        |
| 平成 22 年度 | 3,182      | 2,569       | 2,402<br>(75.5%) | 133<br>(5.2%)                | 8         | 26  | 227        | 16       |
| 平成 23 年度 | 3,396      | 2,701       | 2,529<br>(74.5%) | 133<br>(4.9%)                | 12        | 27  | 248        | 30       |
| 平成 24 年度 | 3,325      | 2,664       | 2,496<br>(75.1%) | 132<br>(5.0%)                | 7         | 29  | 265        | 10       |
| 平成 25 年度 | 3,426      | 2,688       | 2,522<br>(73.6%) | 153<br>(5.7%)                | 3         | 10  | 210        | 9        |
| 平成 26 年度 | 3,438      | 2,676       | 2,519<br>(73.3%) | 126<br>(4.7%)                | 6         | 25  | 199        | 35       |
| 平成 27 年度 | 3,492      | 2,732       | 2,554<br>(73.1%) | 141<br>(5.2%)                | 12        | 25  | 191        | 29       |

<sup>1</sup>管外率：年間総火葬件数のうち、管外から持ち込まれる件数の割合。

## 1.2 新斎苑の計画地

### 1.2.1 新斎苑計画地の位置

新斎苑計画地（以下、「計画地」とする。）は、現在の火葬場から東南約 1.2 kmの横井町地内の山林に位置し、主要地方道奈良名張線から岩井川を越えた南側にあります。市街地に比較的近く、約 1.2～1.7 kmの距離のところに、県立高円高校や奈良教育大学などが立地していますが、計画地から 250m以内に住宅はありません。

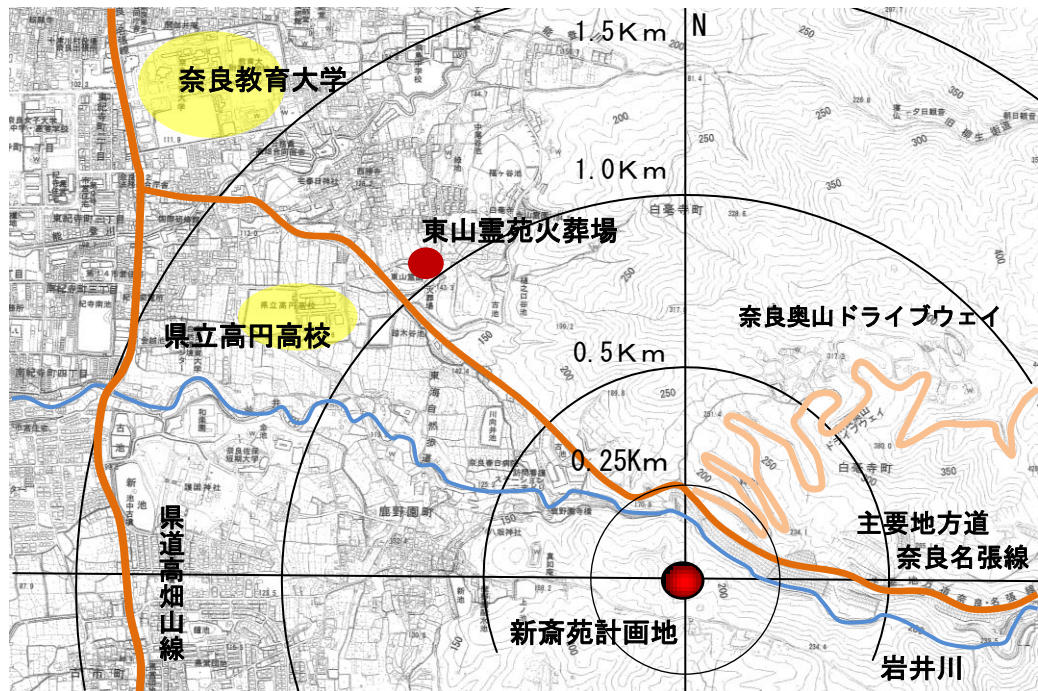


図 1-2 計画地位置図

### 1.2.2 計画地の概況

計画地は面積約 5ha で、平坦なところを有していますが傾斜地が多くなっています。

計画地は、北側には主要地方道奈良名張線と岩井川が並行して位置し、岩井川と南側の市道東部第 285 号線との間に挟まれた山林となっています。

南側市道が丘陵の尾根を形成して高くなっており、北側に面する岩井川に向かって低くなる北向きの斜面となっています。

岩井川に接するあたりで標高 160～170m、南側の市道に近いところで、標高 210～220m となり、その高低差は約 50～60m となっています。

西端には、計画地内で最も高い標高 228m の小高い部分を有しており、最大高低差は 60～70 m となっています。

地形勾配は、急なところを除いて平均的には 1：3 程度の傾斜を持ち、一部谷になっているところでは、1：5 の緩勾配のところもみられます。



図 1-3 計画地航空写真

### 1.2.3 市街地からの眺望

市街地から計画地を望める地点は、主要地方道奈良名張線及び市道東部第 285 号線の 2 つの谷に沿って計画地の丘陵に至る視線が想定されます。その視線上の代表的な視点場として、以下の 2 点を設定しています。

- ・ 県立高円高校付近
- ・ 近隣集落付近

2 つの視点からの可視領域図及び各視点からの見え方について、以下のとおりとなっています。

#### ・ 県立高円高校付近

主要地方道奈良名張線添いの谷を通して、比較的奥まで見通せますが、計画地は直近の山に遮られ、直接見ることはできません。

#### ・ 近隣集落付近

東方向は山に遮られ、あまり遠くまで見通せるところはありません。また、計画地周辺へは手前の山によって遮られ、直接見ることはできません。

以上より、新斎苑の計画地は市街地側からは、直接見えにくい位置にあります。

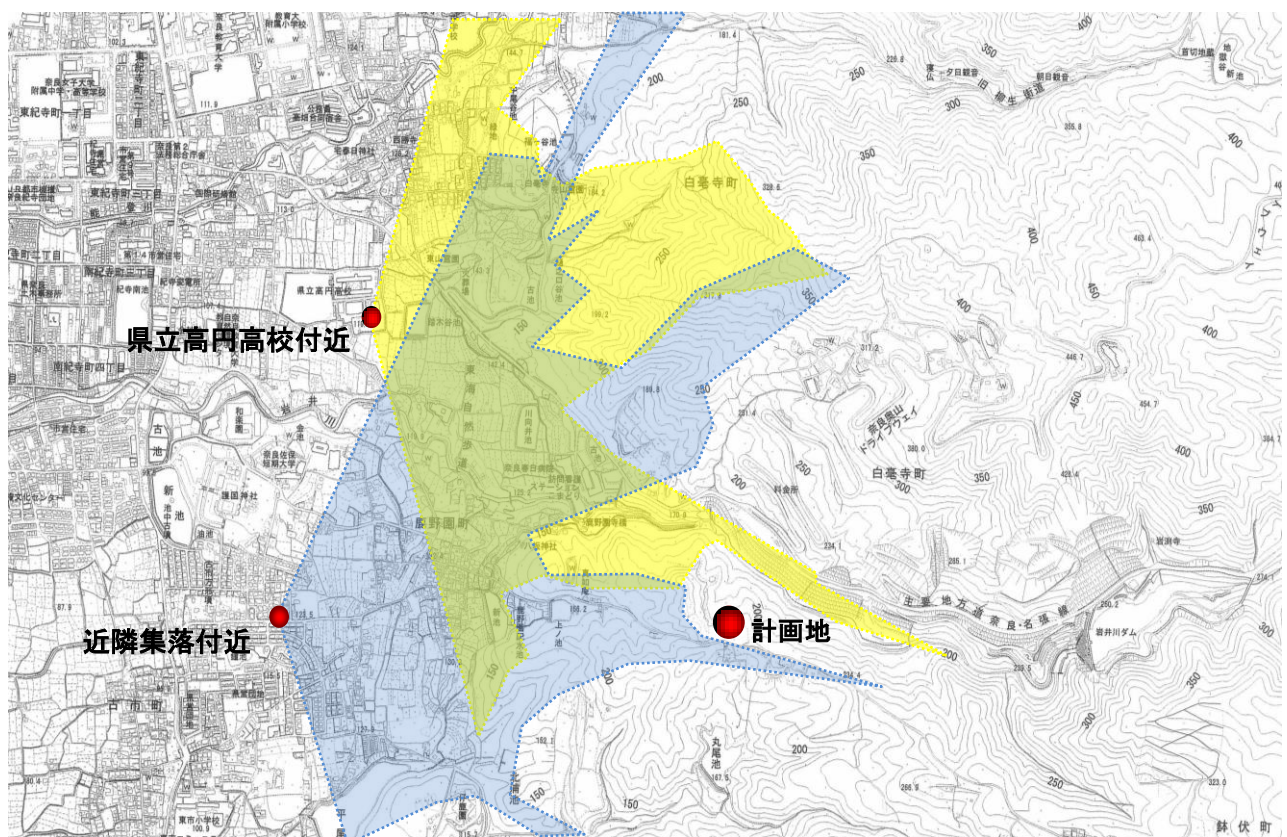


図 1-4 市街地からの可視領域図